

2024年度（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部 における 6人制ルールの取り扱いについて

（公財）日本バレーボール協会審判規則委員会による『2024年度6人制ルールの取り扱い』に基づき「（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部」において協議・検討を加え、「2024年度の6人制ルールの取り扱い」を決定しました。

なお、この取り扱いは、全日本中学校バレーボール選手権大会で適用するものであり、各ブロックまたは各都道府県大会等においては、それぞれの実行委員会において、取り決めをお願いするものとします。

【1】 プレーの動作に関する事項

9.2 ヒットの特性

9.2.1 ボールは身体の中のどの部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前にボールを4回ヒットすること。

（規則 9.1, 第 11 図⑨）

9.3.2 アシステッドヒット：選手が競技エリア内でボールをヒットするために、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。（規則 9.1.3）

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げる。この場合、ボールはヒット後、接触しているところから離れない。（規則 9.2.2, 第 11 図⑩）

9.3.4 ダブルコンタクト：1人の選手が連続してボールを2回ヒットすること、またはボールが1人の選手の身体の中のさまざまな部分に連続して触れること。

（規則 9.2.3, 第 11 図⑪）

（注）

- 1 プレーのハンドリング基準は、すべて同一である。
- 2 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。
- 3 ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。
- 4 特にオーバーハンドパスにおいて、手の中に止まるケースや長くとどまるようなプレーは、キャッチの反則となる。

中体連でも同様に扱う。

※ 審判員の資質向上がバレーボールにおける競技力向上に資することを踏まえ、これまで同様、プレーを的確に判定するものがある。判定基準が厳しくなったものではないことから、各ブロックや都道府県における伝達では、指導者や選手に誤解を与えることのないよう実技研修を取り入れるなど、配慮する必要がある。

12.3 サービスの許可

ファーストレフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。(第 11 図①)

(注)

- 1 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、またポジション4にリベロが上がった場合は正規の選手にリプレイスメントするよう、サービスのホイッスルの前に促す。

もしファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

中体連でも同様に扱う。

【2】 競技参加者の行為に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者はレフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対してもフェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 ファーストレフェリーの判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告する。繰り返した場合は、ペナルティを科す。
- 3 不法な行為については、その程度に応じて、適切な処置を行う。
- 4 競技参加者が、レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告する。繰り返した場合は、ペナルティを科す。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①ファーストレフェリーが最終判定を出した後もレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ファーストレフェリーがゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、ゲームキャプテンから繰り返された場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

【主にステージ2に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して抗議や不服的な態度を必要以上に示した場合。
- ②ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 5 監督がセカンドレフェリーやスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
- 6 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

中体連でも同様に扱う。

- ※ 軽度な不法な行為に対する警告は、その後の再発を防ぎ、中学生がフェアプレーの精神を身につけるために、躊躇することなく、早い段階でステージ1またはステージ2を与え対処すべきである。ただし、中学生は上記のような対処を知らない場合があり、必要に応じて説明し、礼儀正しく指導する必要がある。
- ※ 日本中体連において、不法行為等で監督が退場・失格になった場合、試合を続けることができない。ただしバレーボール競技部では、監督に代わり引率責任を負える者が会場内にいる場合、試合を続けることができることとしている。なお、クラブチームは、監督に代わり資格を有するコーチがベンチにいる場合、試合を続けることができることとする。ただし、いずれの場合も代理の者が監督としての権利を持つことはできず、退場・失格になった監督は、大会を通して監督に復帰することはできない。
- 6 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの握手については、これを奨励し、協力を求めていく。

【3】 プレーの構造に関する事項

7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内でローテーション順に位置していなければならない。

7.4.3 選手のポジションは次のとおりコート面に接している両足の位置（最後にコート面に接触していた部分）により決定し、コントロールされる。

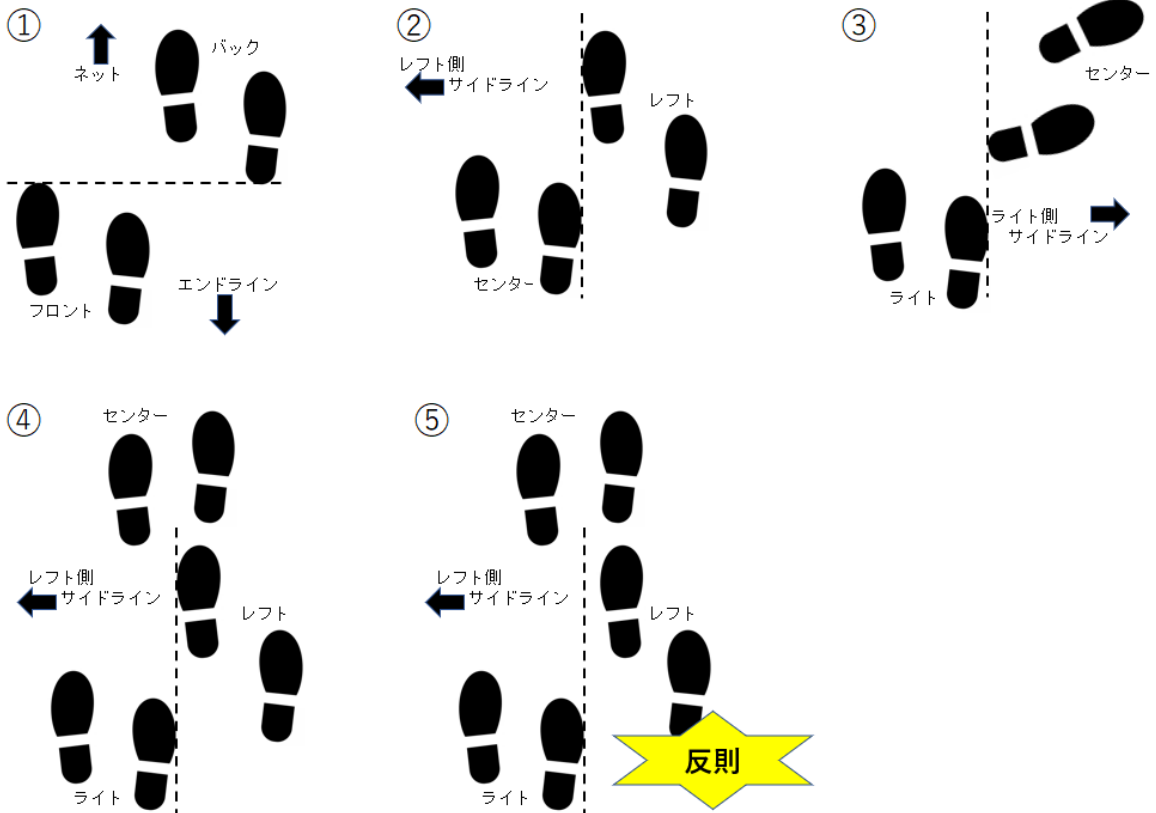
7.4.3.1 各バックプレーヤーは対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターラインから遠い位置にいなければならない。

7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト（レフト）のサイドラインに近い位置にいなければならない。

(注)

- 1 サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わり反則となっているケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなくてはならない。
- 2 サービスヒットの瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。

下図①から④はいずれも反則とならない。



中体連でも同様に扱う。

【4】 チームリーダーに関する事項

5.1 キャプテン

5.1.2 試合中、チームキャプテンはコートに入っているときにはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは、監督またはチームキャプテンは、ゲームキャプテンの役割を担うコート上の選手を指名しなければならない。指名されたゲームキャプテンは、選手交代で退くか、チームキャプテンがプレーに復帰するか、またはそのセットが終了するまでその責務を担う。

ボールがアウトオブプレーのとき、ゲームキャプテンだけが次の場合にレフェリーへの発言を許可される：

5.1.2.1 競技規則の適用や解釈について説明を求める。チームメイトの要求または質問を伝える。ゲームキャプテンがファーストレフェリーの説明に納得できない場合は、ファースト

レフェリーの決定に対する抗議を選択してもよい。その場合、試合後にスコアシートに正式抗議を記入する権利を確保するため、直ちにファーストレフェリーに申し出る。

(規則 23.2.4)

5.2 監督

5.2.1 監督は試合を通してコートの外からチームのプレーを指揮する。また、スターティングラインアップと交代選手を選び、タイムアウトを要求する。これらの役割に関わるのはセカンドレフェリーである。

5.2.3.1 各セットの開始前、正しく記入されたラインアップシートにサインして、セカンドレフェリーまたはスコアラに提出する。タブレットを使用する場合は送信されたラインアップが公式のものとみなされる。

5.2.3.4 他のチームメンバーと同様にコート上の選手に指示を与えてもよい。

ウォームアップエリアが競技コントロールエリア内のコーナーにある場合、試合を妨げたり遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合は、自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよいが、ラインジャッジの視界を遮ってはいけない。

(注)

1 試合中に監督をはじめチームスタッフやゲームキャプテン以外のチームメンバーが、レフェリーに質問等、発言をすることはできない。

2 監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL2・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。

ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

3 セット間の時間は前のセットが終了後、次のセットが開始されるまで3分間である。

したがって、前のセット終了後2分30秒でホイッスルをし、スターティングメンバーをコートに入れ、ラインアップを確認する。そのためにセカンドレフェリーは、積極的に次のセットのラインアップシートの提出を監督に要求する。

中体連でも同様に扱う。

2 中体連においても、監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながらでも歩きながらでも指示を出すことができる。その場合、監督の言動が選手に与える影響を考え、部活動における適切な指導が行われるよう、レフェリーは、十分に注意を払う必要がある。ラリー中やラリー後に、監督における、選手への不適切な言動や、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。また、ラインジャッジの視界を遮っていたり、ラインジャッジの判定に影響を与えるような位置（近すぎてラインジャッジが威圧感を感じる…など）にいたりする場合は、適宜、レフェリーが、監督に指導する。

15.4 タイムアウト

15.4.1 タイムアウトは、ボールがアウトオブプレーでサービスのホイッスルの前に、該当するハンドシグナルを示して要求しなければならない。チームの要求によるすべてのタイムアウトは30秒間である。(第11図④)

15.4.2 すべてのタイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。

(注)

- 1 タイムアウトに入ったら、コートから離れなくてはならない。ただし、その位置については制限されない。
- 2 タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。

中体連でも同様に扱う。

※ 中体連において、「給水のためのタイムアウト」を採用している場合、選手（マネージャーを含む）は、ウォームアップエリアで給水を行い、タイムアウト終了後にコートに戻る。その間、監督とコーチは、ベンチに着席しており、選手に対して指示を与えることはできない。